

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1. なし				
(著書(和文)) 1. スタンダード臨床心理学	共	2015年8月	株式会社 サイエンス社	<分担執筆>第2章「臨床心理アセスメント1」執筆 (pp. 35-56)
2. ヒューマンサービスに関わる人のための学校臨床心理学	共	2004年3月	文化書房博文社	<分担執筆>第2部「学校臨床心理学の対象」より第11講「心身症」p. 84—91. 第4部「各領域における学校臨床心理学の実践」より第27講「大学」p. 206-213.
(学術論文(欧文)) 1. なし				
(学術論文(和文)) 1. 心身症の心理療法	単	2003年5月	理療	身体疾患を呈する患者のうち、心理社会的因子の密接な関与が考えられる患者に対して、心理療法の考え方を参考にどのような心理的配慮が有効か、という視点を提供した。そのために、心身症の病態を理解するための枠組みについて、心理社会的因子を捉える上で留意すべき点、心理療法を実施するにあたっての配慮、などについて、順を追って概説した。(第33巻, 第1号, pp. 26-32)
(紀要論文) 1. グループ箱庭体験が参加者の心理状態に与える影響	単	2023年3月	常磐大学心理臨床センター紀要	大学生12名の協力を得て、グループ箱庭体験の実習を行い、参加者の心理状態の変化を確認した。結果、グループ箱庭の実習体験のプロセスに応じて心理状態が変化することがわかった。具体的には、作成直後ではなく、振り返り後に心理状態が活気づくことが明らかになった。他方、落ち着いた状態に導くには、振り返り前の体験直後の方が適している可能性が示唆された。(第17号, pp. 15-22)
2. 支援者からみたDV被害の回復過程に関する質的研究 —裏切られ体験の視点から—	共	2021年3月	常磐大学大学院学術論究	鈴木花音・馬場久美子/本研究の目的は、裏切られ体験からの回復過程を明らかにすることである。調査対象者は、DV被害者支援に携わる(あるいは携わったことのある)支援者3名。支援者に面接を実施し、得られた計3事例についての語りを複線径路・等至性モデル(TEM)により分析した。その結果、DV被害が裏切られ体験であると結論づけることはできなかったが、裏切られ体験の要素は含まれているのではないかと考えられた。(第8号, pp. 17-32)

3. 大学生における生きがいがアイデンティティ形成に与える影響	共	2021年3月	常磐大学大学院学術論究	齋藤佑美・馬場久美子／本研究は、アイデンティティ形成において、生きがいの効果を検討することを目的とし、生きがいの有無が生きがい感とアイデンティティ形成過程に与える影響を調査した（研究1）。研究2では、生きがいがアイデンティティ形成において重要とされる「危機」を乗り越える時にどんな機能を果たすのか面接調査を実施して考察した。生きがいが有ることでも必ずしもアイデンティティ形成が達成されるわけではないが、「危機」に直面した際、生きがいが自分に喜びを与え、支えとなることが「危機」を乗り越え、アイデンティティ形成の一助となりうることを示された。（第8号，pp.1-15）
4. 子どものイメージ表現に向き合うことの難しさと大切さ	単	2020年3月	常磐大学心理臨床センター紀要	筆者が担当したカウンセリング事例の中から、子どものイメージ表現にセラピストとして向き合ったことが重要な役割を果たせたと考えられる2事例を取り上げた。子どもの表現を筆者がどう受けとめて次の言動に繋がっていったのかを辿りながら、子どもの表現の意味していたこと、治療者としての役割、保護者との関係などについて考察した（第14号，pp.25-32.）
5. 大学生を対象としたストレスマネジメント教育が感情状態に及ぼす効果について	単	2016年3月	常磐大学大学院学術論究	大学生11名を対象に約90分のストレスマネジメント教育を実施し、講習前後の感情状態の変化を質問紙への自己評価結果を基に検証した。結果、講習後の受講者の感情は「肯定的感情」と「安静状態」の得点が有意に上昇し、「否定的感情」の得点が有意に減少した。短時間のストレスマネジメント教育であっても感情状態をポジティブな方向へ変化させる効果が期待できることを示唆した。（第3号，pp.59-74.）
6. 視線によるロールシャッハ刺激の評価特性と投影結果について	共	2014年3月	常磐大学大学院人間科学研究科 常磐大学心理臨床センター紀要	馬場久美子・申 紅仙・伊田政司・渡邊孝憲・伊東昌子・島田茂樹・西澤弘行・中村泰之／パーソナリティ査定の検査用具として幅広く使用されているロールシャッハ図版を刺激とし、被装着型アイカメラを用いてロールシャッハ反応と視線分析結果の関連性を検証した。結果、刺激図版の特性に依拠した共通の視線結果だけでなく、対象者によって最終的に産出された反応が一般的なものではないときは、視線の動きも特定の領域を繰り返し注視するなどの特異性のあることが見いだされた。（第8号，19-28）

7. 視線によるウェブ・ユーザビリティ評価	共	2011年3月	常磐大学人間科学部 紀要 人間科学	申 紅仙・伊田政司・渡邊孝憲・伊東昌子・島田茂樹・馬場久美子・西澤弘行・中村泰之／高校生と大学生の大学ホームページ情報取得過程を被装着型アイカメラを用いて分析し、より良い大学ホームページデザインについて提言した。(第28巻, 第2号, 85-93)
8. 情緒的巻き込まれ傾向とロールシャッハ情緒体験 —女子大学生3事例の色彩反応と材質反応からの検討—	共	2008年3月	常磐大学大学院人間科学研究科 常磐大学心理臨床センター 紀要	馬場久美子・樫村正美／情緒的巻き込まれ傾向の高い3事例のロールシャッハを分析し、共通して自他の情緒変化への敏感さを認めた。一方、自らの情緒体験をいかに統制・表出するかという過程では異なる体験をしていると考えられた。(第2号, 15-21)
9. 課題の取りかかりに関する研究：パーソナリティとストレスコーピングの関連性について	共	2004年	広島大学大学院心理臨床教育研究センター 紀要	岡 水鶴・小川俊樹・馬場久美子・鈴木伸一／不決断と関連するパーソナリティを明らかにした上で、授業の課題に注目し、パーソナリティが課題の取りかかりにどう影響するのかを検討した。また、取りかかりの個人差と課題の締め切りまでの状態不安の変化との関連を明らかにするとともに、取りかかりをコーピングの類型と照らし合わせて検討した。(第3号, 58-65)
10. パーソナリティ特徴と被養育体験からみた抑うつ心の心理的特質—予備的研究	共	2003年9月	筑波大学心理学研究	小川俊樹・鈴木久美子・堀 正士／研究1では、大うつ病性障害と診断された11名を対象とし、どの次元の完全主義がうつ病と関連深いか、被養育体験との関連があるかを調査した。結果、失敗への恐怖と強迫的努力が理想の追求よりもうつ病患者に特徴的であり、またうつ病患者の完全主義は、過保護な被養育体験と関連深いことが示された。研究2では、149名の学生に研究1の質問紙に加え、抑うつを調べる尺度を実施したところ、抑うつ傾向の高い学生は完全主義傾向が強く、特に理想の追求と強迫的努力の点でその傾向が顕著であることが明らかになった。(第26号, 235-242)
11. 情緒不安定な理由を親に求める娘に戸惑う父親の事例	単	2002年3月	筑波大学臨床心理学 論集	情緒不安定の理由を親に求める娘への対応に息詰まって来談したクライアント(父親)との約2年半経過した時点での計64回の面接経過をまとめた事例報告である。クライアントと娘そしてクライアントとクライアントの妻とのやりとりや、面接場面でのクライアントとセラピストの関係性について特に焦点を当てて考察した。(第16集, 21-28)

12. 「情緒的巻き込まれ」に関する心理学的研究Ⅰ－尺度の作成－	共	2001年3月	筑波大学心理学研究	鈴木久美子・小川俊樹／「情緒的巻き込まれ」を自他の心理的境界が曖昧な状態を前提とする不安定な心配しすぎの関わり、と定義し、その特徴を研究することを目的とした。調査1では、因子分析により献身的行動、共鳴的情緒反応、他者感情の取り込み、相互理解感、重責感、献身的態度のアピールという6因子構造を明らかにした。調査2では、これら6因子と自他の心理的境界の曖昧さとの関連性を確認した。とりわけそうした関連性は、共鳴的情緒反応、他者感情の取り込み、重責感、献身的行動との間に顕著であった。(第23号, 237-245)
13. 不登校の中学生息子への「言葉かけが難しい」と訴えて来談した母親の事例	単	2001年3月	筑波大学臨床心理学論集	中学生息子の不登校を主訴として来談したクライアント(母親)との約1年間にわたる計23回の面接経過をまとめた事例報告である。来談当初、自分ひとりで息子の問題を抱えようとして抱えきれなかった母親が、次第に自分の周りに支えを感じられるようになっていき、最終的に面接の場を去っていったことについて、主に母親自身の感情の動きや家族認知の変容といった視点から考察した。(第15集, 3-9)
14. 家族凝集性からみた家族アセスメント尺度：展望	共	2000年3月	筑波大学心理学研究	家族凝集性とは、家族メンバーを結びつける情緒的親密さ(ミニューチン, 1983)と定義されているが、しばしば家族凝集性が極端に高い、もしくは低い場合に問題を生じるとされる。本論文では、家族凝集性という点から、家族アセスメント尺度を質問紙法、投影法、観察法別に分けてレビューした。(第22号, 227-234)
(辞書・翻訳書等) 1. 基本からのロールシャッハ法	共	2005年10月	金子書房	<分担翻訳箇所>6章ロールシャッハ法の長所と短所p. 139-145. 7章ロールシャッハ法の臨床的応用p. 147-169. 付録1, 4-6 p. 201. p. 208-215. 主要著書解説p. 222-226.
(報告書・会報等) 1. こころの科学 臨床心理士養成 指定・専門職大学院ガイド 2009	共	2008年11月	日本評論社 大塚義孝(編)	臨床心理士養成指定大学院の第I種指定校として常磐大学大学院修士課程人間科学研究科第3領域臨床心理学を紹介(p. 138)
2. 視線によるウェブ・ユーザビリティ評価の検討	共	2007年10月	常磐大学人間科学部 紀要 人間科学 第25巻第1号	人がインターネット情報を取得する過程を視線分析によって明らかにする目的でアイカメラを使用し、常磐大学ホームページを刺激材料として分析した結果、在学生のための情報(休講情報・シラバス)において改善の余地があることが明らかとなった。(p. 75)

3. パーソナルティ特徴と被養育体験からみた抑うつ心の心理的特質—予備的研究—	共	2003年3月	動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト研究報告書	研究1では、大うつ病性障害と診断された11名を対象とし、どの次元の完全主義がうつ病と関連深いのか、被養育体験との関連があるかどうかを調査した。結果、失敗への恐怖と強迫的努力が理想の追求よりもうつ病患者に特徴的であり、またうつ病患者の完全主義は、過保護な被養育体験と関連深いことが示された。研究2では149名の学生に研究1の質問紙に加え、抑うつの程度を調べる尺度を実施したところ、抑うつ傾向の高い学生は完全主義傾向が強く、特に理想の追求と強迫的努力の傾向が顕著であることが明らかになった。 (p. 107-115)
(国際学会発表) 1. なし				
(国内学会発表) 1. 大学生のレジリエンスと非主張性の関連について	共	2021年12月4・5日	日本精神衛生学会第37回大会	海老澤彩嘉・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
2. 精神障害者に対する態度に及びす大学生の家族機能と直接的・間接的接触経験の影響	共	2021年12月4・5日	日本精神衛生学会第37回大会	西祐紀・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
3. 過去の被援助経験の想起がいじめ傍観者の向社会的行動に及ぼす影響	共	2021年12月4・5日	日本精神衛生学会第37回大会	郡司勇暉・寺村堅志・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
4. 大学生のスマートフォン依存傾向に影響を与える要因の検討—性格特性、生活習慣、心身健康度の観点から—	共	2021年12月4・5日	日本精神衛生学会第37回大会	大関陽輔・水口進・渡辺めぐみ・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
5. 「心の理論」と感情理解の関連性	共	2020年11月20-26日	日本心理臨床学会第39回大会	田山真稀子・ <u>馬場久美子</u> ・水口進 (ポスター発表)
6. DV被害からの回復とは—支援者からのアンケートを基に—	共	2020年11月20-26日	日本心理臨床学会第39回大会	鈴木花音・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
7. 大学生における生きがいアイデンティティ形成に与える影響	共	2020年11月20-26日	日本心理臨床学会第39回大会	齋藤佑美・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)
8. 小学生児童における一時的および継続的なストレッチ運動が生理的・心理的ストレス反応に及ぼす効果	共	2020年11月20-26日	日本心理臨床学会第39回大会	奥沢翔太・ <u>馬場久美子</u> ・水口進 (ポスター発表)
9. 青年の抑うつ気分低減のための介入—意識的なセルフ・ハンディキャッピング行動の抑制による効果の検討—	共	2020年11月20-26日	日本心理臨床学会第39回大会	森田初音・水口進・ <u>馬場久美子</u> (ポスター発表)

10. 東白川郡内の中学生におけるゲーム依存と学 校不適応の関連—ゲーム依存に対する自覚の有無による影響について—	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	佐川喜則・渡辺めぐみ・ <u>馬場久美子</u> ・水口進（ポスター発表）
11. 成人期のキャリア危機における対応とその心理的特徴に関する研究—技術者の職業的アイデンティティ再体制化の視点から—	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	杉山惣一・ <u>馬場久美子</u> ・水口進（ポスター発表）
12. 大学生におけるCMC（Computer-mediated communication）上の自己開示量とインターネット依存症傾向性質の程度及びインターネットとの関わり方の関連について	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	真田濤乃・ <u>馬場久美子</u> ・水口進（ポスター発表）
13. レジリエンスに与える性格特性の影響について	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	海老澤彩嘉・ <u>馬場久美子</u> （ポスター発表）
14. 母子間の会話における同調傾向と育児不安の関係について	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	青木陸・ <u>馬場久美子</u> ・水口進（ポスター発表）
15. 大学生における劣等感の領域と劣等感に対する反応行動の関連について	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	萩谷菜生・申紅仙・水口進・ <u>馬場久美子</u> （ポスター発表）
16. 受けた思いやり行動への着眼点と生起感情— その後の他者への思いやり行動を含めた検討 —	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	郡司勇暉・ <u>馬場久美子</u> （ポスター発表）
17. ロック音楽が心身に与える影響について	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	高野裕史・ <u>馬場久美子</u> （ポスター発表）
18. 児童期の遊びの種類（屋外・屋内）と社会的 スキルの関連	共	2020年11月7日・8日	日本精神衛生学会第36回大会	濱田健斗・ <u>馬場久美子</u> （ポスター発表）
19. 支援者から見たDV被害の回復過程に関する質的研究 —裏切られ体験の視点から—	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	鈴木花音・水口進・ <u>馬場久美子</u> （口頭発表）DV被害者支援に携わる支援者3名への面接調査を通して、DV被害者が被害から回復していくプロセスについて複線経路・等至性モデル（TEM）を用いて質的に分析した。

20. 大学生における生きがいの有無が生きがい感とアイデンティティ形成過程に与える影響	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	齋藤佑美・水口進・馬場久美子（ポスター発表）大学生404名を対象に、生きがいの有無が生きがい感とアイデンティティ形成に与える影響を分散分析とカイ二乗検定を用いて分析した結果、生きがいが有る人は無い人よりも生きがい感が有意に高く、アイデンティティ形成過程において2番目に上位の地位に有意に多いことが明らかにできた。
21. セルフ・ハンディキャッピング行動が、自己肯定感と抑うつ気分を与える影響	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	森田初音・水口進・馬場久美子（ポスター発表）大学生367名を対象に、セルフ・ハンディキャッピング行動における理想自己と現実自己の評定値の差が大きい群（差大群）と差が小さい群（差小群）の自己肯定感と抑うつ気分を分散分析で比較検討した結果、差小群が差大群に比べて有意に自己肯定感が高く、抑うつ気分が低いことが明らかにできた。
22. 小学生における一時的および継続的なストレッチ運動が生理的・心理的・行動的ストレス反応に及ぼす効果	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	奥沢翔太・馬場久美子・水口進（ポスター発表）小学生児童13名を対象にストレッチ運動のストレス反応軽減効果を実験的に検証した。結果、参加児童の動機づけの有無がストレス反応軽減への効果と継続的取り組みに影響していることが示唆された。
23. きょうだい葛藤体験と生き方志向との関連について	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	鬼田善規・宇治和子・渡辺めぐみ・馬場久美子・水口進（ポスター発表）2人きょうだいの大学生を対象にきょうだい葛藤体験と生き方志向との関連について質問紙調査をした結果、長子よりも末子の方が劣等感を感じやすいことが明らかとなった。
24. 保育形態が幼児の「他者の心的状態の理解」に及ぼす影響	共	2019年12月7日・8日	日本精神衛生学会第35回大会	田山真稀子・馬場久美子・水口進（ポスター発表）保育園・幼稚園児85名を対象に、「他者の心的状態の理解」課題を個別実施し、保育形態（異年齢・同年齢保育）の及ぼす影響を検証した。結果、保育形態による影響は認めず、年齢の主効果のみ認められ、発達の要因が他者の心的状態の理解に影響を及ぼすことが明らかとなった。
25. 反すうが問題解決に与える影響	共	2018年7月	こころの健康（日本精神衛生学会誌）	伊野由佳梨・菅佐原洋・馬場久美子・水口進（ポスター発表）ネガティブな事象に関する反すうが問題解決（ワーキングメモリ課題の成績）へ及ぼす影響を検討する実験を行うための先行研究のレビューと実験計画を報告した。（第33号，第1巻，62）

26. 思春期を生きる小・中学生の学校適応と学校適応感との関連一質問紙調査を通して一	共	2014年11月	こころの健康（日本精神衛生学会誌）	大関千尋・濱崎武子・水口進・馬場久美子・菅佐原洋（ポスター発表）小学校高学年生と中学生を対象に「学校適応」と「学校適応感」を尋ねる質問紙を実施した。「学校適応」と「学校適応感」との関係性について、小学生と中学生とを比較検討した結果を発表した（第30号，第1巻，74）
27. 認知症高齢者グループホームに入居する高齢者の生きがい感到にコラージュ制作が与える影響	共	2013年8月	日本心理臨床学会第32回秋季大会発表論文集	星野晃平・馬場久美子・水口進（ポスター発表）グループホーム入居中の高齢者を対象にコラージュ制作が生きがい感到に与える効果を検討した。結果、個人での作品作りよりも集団での作品作りのほうが生きがい感到を高めることが分かった。（p. 641）
28. グループホームに入居する高齢者の生きがい感到にコラージュ制作が与える影響	共	2013年6月	こころの健康（日本精神衛生学会誌）	星野晃平・菅佐原洋・馬場久美子・水口進（日本精神衛生学会第28回大会ポスター発表）コラージュ作成を含む作品作りをグループホーム入居中の高齢者に取り組んでもらい、preとpostで生きがい感到を確認した。結果、作成を通して参加者間のやりとりの増加が観察され、生きがい感到の向上に影響したことが推察された。（第28巻，第1号，74）
29. 児童自立支援施設入所児のアサーション・タイプについて	共	2012年6月	こころの健康（日本精神衛生学会誌）	平林知実・水口進・馬場久美子・菅佐原洋（日本精神衛生学会第27回大会ポスター発表）児童自立支援施設入所児と一般中学生を対象に、アサーションが必要とされる仮想場面を作成して提示、回答を求めた。X ² 検定の結果、アグレッシブなタイプは施設入所児に、ノン・アサーティブと適切なアサーションタイプは一般中学生に有意に多いことが分かった（第27巻，第1号，97）
30. 青年の自他肯定性とFASTに見る親子関係について	単	2010年6月	日本家族研究・家族療法学会第27回大会	一般青年と親との意見不一致経験を自由記述で求め、半数以上の青年にとって身近なテーマであった進路の問題を葛藤場面として設定、日常場面と比較して親子の心理的距離（家族凝集性）と力関係（ヒエラルキー）に関するこの認識の違いについてFASTを用いて個別に面接調査を行った（家族療法研究 Vol. 27, No. 1, pp. 74）
31. 愛着の不安定型における防衛のあり方一養育態度に関連する母親の内的作業モデルにみられる防衛機制一	共	2009年9月	日本心理臨床学会第28回大会発表論文集	稲垣千代・福島有美・中村妙子・馬場久美子・濱崎武子（口頭発表）保育園・幼稚園を通じて乳幼児を持つ母親30名を対象に面接調査を実施。IWMの不安定型は愛着における安全基地が得られなかったため、goodとbadに極端に分裂した表象から生じる不安定で脅威に満ちた内的現実があった。外的現実を歪め、脅威として知覚するために、投影同一視などの防衛機制を用いて感情をコントロールしていることが考えられた。（p. 245）

32. 芳賀赤十字病院における臨床心理士の役割	共	2008年7月	第114回日本小児科学会栃木県地方会(済生会宇都宮病院)	大津絵美子・馬場久美子・中島尚美・松原大輔・鈴木由芽・菊池由紀子・金沢鏡子・保科優・菊池豊(口頭発表)総合病院小児科外来における心理臨床の実際について統計的資料に基づいて発表した。
33. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究(7)～ロールシャッハ情緒指標との関連から～	共	2007年9月	日本心理学会第71回大会発表論文集	馬場久美子・樫村正美/本研究では、「情緒的巻き込まれ」傾向の低い個人について特に焦点を当て、情緒体験の特色を探った。結果、感受性は高いが表現が抑制的であるため、自らの情緒の動きについて周囲に伝わりにくい側面のあることが確認された。(p.68)
34. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究(6)～ジェンダー・パーソナリティの観点から～	単	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集	先行研究では女性が男性よりも対人関係において情緒的に巻き込まれやすいという結果が得られていたが、本研究の結果から、生物学的性差よりも、ジェンダー・パーソナリティの影響が強いことが明らかになった。具体的には、女性性に加えて男性性も高い人は男女に関わらず「情緒的巻き込まれ」傾向が高いことが確認できた。(p.40)
35. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究(5)～Locus of controlに見る統制の所在について～	単	2005年8月	日本心理学会第69回大会発表論文集	「情緒的巻き込まれ」傾向の高い個人は、自分自身ならびに自身を取り巻く世界全般をコントロールできるものと信じている(内的統制感を持っている)と仮定し、性差も踏まえて検討した。結果、女性においてのみ情緒的巻き込まれ傾向の高い人のほうが低い人よりも、内的統制感を持つことが示された。(p.53)
36. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究(4)～TATに見る対象へのかかわり様式について～	単	2003年8月	日本心理学会第67回大会発表論文集	個人の対人関係における「情緒的巻き込まれ」傾向と、大正へのかかわり様式との関係性を明らかにすることを目的として、質問紙およびTATお持ち板個別面接調査を実施して検討した。結果、「情緒的巻き込まれ」傾向の強い個人は単に受動的な存在ではなく、自ら対象に関与していく能動的な面も備えた存在であることが指摘できた。(p.64)
37. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究(3)～TATに見る対人関係のあり方・問題への取り組み方～	共	2001年10月	日本心理学会第65回大会発表論文集	鈴木久美子・小川俊樹/対人感情を喚起しやすい投影法(TAT)を用い、TATにおいて自己の投影と考えられる主人公(主体)が重要な他者とどういった関係を持ち、またそうした対人関係の中で自分の置かれた状況にどのように取り組むのかという点から、「情緒的巻き込まれ」の対人関係のあり方および問題への取り組み方を質的に検討した。(p.1051)

38. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究 (2)－共感性との異同から－	共	2000年10月	日本心理学会第64回 大会発表論文集	鈴木久美子・小川俊樹／他者の問題をあたかも自分の問題のように感じることができるが、“あたかも”が欠落し”まさに”自分のこととして体験する「情緒的巻き込まれ」は、他者との間に心理的な境界が保てない対人特徴と考えられる。本研究では、「情緒的巻き込まれ」と共感性との異同を検討した。(p. 82)
39. 「情緒的巻き込まれ」に関する研究 (1)－尺度作成を通して－	共	1999年8月	日本心理学会第63回 大会発表論文集	鈴木久美子・小川俊樹／「情緒的巻き込まれ」を「自他の心理的境界が曖昧な状態を前提とする不安定な心配しすぎの関わり」と定義し、LeffとVaughn(1985)のEmotional Over-Involvement (EOI) 尺度を参考に予備尺度を作成した。因子分析の結果、献身的行動、共鳴的情緒反応、他者感情の取り込み、相互理解感、重責感、献身的態度のアピール、という6因子構造を確認した。(p. 186)
(演奏会・展覧会等) なし				
(招待講演・基調講演) 1. ひたちなか市市民大学		2014年5月31日	開講式基調講演	「日常に生かす家族・対人関係の心理学」
(受賞(学術賞等)) なし				

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) なし						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) なし						
(共同研究・受託研究受入れ) 1. パーソナリティ特徴と被養育体験からみた抑うつ心の心理的特質－予備的研究－	分担	特別プロジェクト	2002年度	筑波大学 動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト 研究組織	失念	
(奨学・指定寄付金受入れ) なし						
(学内課題研究(共同研究)) 1. 視線によるウェブ・ユーザビリティ評価の検討	分担	—	2006年4月 ～2009年3月	—	4,185,000 円	

2. 視線によるロール シャッハ刺激の評価 特性と投影結果の妥 当性について	代表	—	2009年4月 ～2012年3 月	—	3,265,000 円	
(学内課題研究(各個研究)) 1. ロールシャッハ情緒 指標との関連からみ た「情緒的巻き込ま れ」体験について	—	—	2005年度	—	400,000円	
(知的財産(特許・実用新案等)) なし	—			—	—	